

講義コード	1059	科目区分	専門教育科目(スポーツ健康福祉専攻)
(フリガナ)	オウキュウシヨチホウ	(フリガナ)	クニキ タカハル
授業科目名	応急処置法(FA & BLS)	担当教員名	國木 孝治
英文授業科目名	Theory and Practice of First Aid and BLS		
基準年次(開講期)	2年生(前期)	履修形態	選択
曜日/時限/講義室	水曜日/2時限/321		
授業の方法	講義・演習	授業の方法 (詳細情報)	講義中心、演習中心、実習中心
単位	2	週時間	1
授業のキーワード	ファーストエイド、BLS、心肺蘇生法、AED		
授業概要・目的	不慮の事故や急病になった場合は、医療機関に着くまでの適切な応急処置が大切である。そのため本授業では、一次救命処置(BLS)や各種の応急手当に関する基本的な知識・技術・態度を学習する。特に学校、スポーツ施設、福祉施設などをはじめ、人が大勢集まる場所では、応急処置の方法を身に付けていることが望まれる。したがって、一般市民も実施することが可能なAEDを含めた心肺蘇生法および応急処置は、指導的立場に立つ者はもとより、全ての者が修得すべき必要不可欠な技術と知識である。救急処置実習では、救急処置に関する手技を実施できるようになるのみならず、その理論や根拠についても言及する。なお、本授業では、日本ライフセービング協会が認定・発行する『BLS(AED+CPR)』資格を発行することができる。		
到達度評価の 評価項目	(知識・理解・技能) ・AED等を用いたBLS(一次救命処置)に関する知識・技術が習得できる。 ・応急処置法および救急救命の理論と技術を用いて現場で迅速且つ積極的な行動をとることができる。 ・応急処置法や救急救命に関連する講習に参加することができる。		
授業計画			
第1回	授業ガイダンス 授業の進め方。資格認定に関する説明		
第2回	救急処置概論 BLSとは。我が国における救急要請の現状と課題		
第3回	BLS(心肺蘇生法)の意義 救命の連鎖。BLSの実際		
第4回	BLS(心肺蘇生法)実技① 安全の確認、応援要請、呼吸の確認		
第5回	BLS(心肺蘇生法)実技② 胸骨圧迫、人工呼吸		
第6回	BLS(心肺蘇生法)実技③ AED到着後の対応		
第7回	BLS(心肺蘇生法)実技④ 蘇生処置後の対応(安静の体位)、乳児・小児の心肺蘇生		
第8回	応急処置概論 応急処置とは。教育・スポーツ現場における疾病・怪我への対応		
第9回	応急処置(包帯法)実技① 止血法、三角巾を用いた保護包帯法(頭部・胸部)		
第10回	応急処置(包帯法)実技② 三角巾を用いた包帯法(上肢)		
第11回	応急処置(包帯法)実技③ 三角巾を用いた包帯法(下肢)		
第12回	応急処置(包帯法)実技④ 巻軸帯を用いた包帯法		
第13回	応急処置(運搬法)実技④ 傷病者の搬送・運搬法		
第14回	応急処置論① 手当の基本(1):外傷の対応		
第15回	応急処置論② 手当の基本(2):急病の対応。授業総括		
教科書・参考書等	各回、配布資料を用意する。以下、予習・復習にあたる参考図書を紹介する。 ・応急手当指導者標準テキスト改訂委員会編(2016)応急手当指導者標準テキスト:ガイドライン2015対応。 ・日本ライフセービング協会編(2016)BLS。 ・日本蘇生協議会編(2016)JRC蘇生ガイドライン2015		
授業で使用する 機器等	各回配布資料を用意する。ほか、音声教材、映像(ビデオ/PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	各回とも講義内容を確認し、参考文献・資料を読む。		
履修上の注意・ 受講条件等	・中学校および高等学校保健体育免許取得要件科目 ・日体協:スポーツリーダー取得要件科目		
成績評価の基準等	以下の3つの観点から評価する 1) 授業に取り組む姿勢(25/100) 2) 学科テスト(25/100) 3) 授業実践力(50/100)		
メッセージ	遅刻厳禁。授業中の飲食禁止。携帯電話の電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと(各種障がいのために携帯電話が必要な場合は申し出ること)。		
オフィス・アワー	各期オフィス・アワー時に國木孝治研究室(7号館:726)にて対応する。		
その他	本授業を履修することで、日本ライフセービング協会認定「BLS(CPR+AED)」資格を認定・発行することができます。		